

大楽毛南地区  
音別海光団地

# 安全な津波避難のために津波避難タワーを

## 高知県で実際に避難タワーを調査してきました

避難階の半分には屋根がかかっています



救援ヘリコプター用のレスキューマーク

◆避難階の広さは一人1㎡。緊急時の県の基準の二倍  
避難スペースは決して広いとは言えませんが、一人あたり1㎡。定員の二倍の人を収容可能な広さです。

◆避難階は、浸水予想より4m高い  
避難タワーの避難階は、津波の浸水深より4M高くなっていて、想定を超える津波の高さでも大丈夫です。

### 香南市

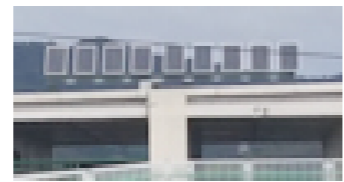
## 津波避難タワーから学ぶこと



高知県香南市で設置されている津波避難タワー

10月上旬、南海トラフの大津波に備える津波避難タワーについて、高知県香南市を視察してきました。上の写真は、YS1夜須町第6地区西部津波避難タワーです。約350人が避難可能です。  
香南市は市内に津波避難タワーを、22基建設予定で、すでに18基が完成しています。そのうちの数基は県が造ったものですが、大半は市の建設です。国の補助金が半分あり、一基の建設費用は2・5億円あまり。人命を守ることを最優先とする市の姿勢が表れています。

ちなみに、避難階の広さは、ほかに逃げる場所がなくて、避難タワーに逃げ込む人の数を基本的に設計しています。つまり、全員が安全に避難というのがベースの考えです。



屋上のソーラーパネル

### ◆避難物資・施設

一日分を目安に水、毛布、仮設トイレなどの避難物資も保管しています。避難階の下の階が、避難物資の保管階です。ほかに、避難はしごや太陽光パネル、携帯の充電施設などもあり、夜間でも最低限の電力を賄えるようになっています。



海水浴場に建設した県の津波避難タワーも見学しました。



入口は施錠してありますが、プラスチックのころをたたき割ればだれでも入れます。階段のほかに、車いすでも登れるようスロープもあります。



## 釧路につくるときは冬の防寒・雪の対策が必要です

村上かずしげ通信 19.10.27

発行 日本共産党市議団 電話 23-5212